

## 中期経営計画（2010～2012年度）を策定

住友化学は、このほど、2010～2012年度の中期経営計画を策定いたしました。策定に際し、今後の世界経済・事業環境などについて長期的な視点で行った分析結果と、当社の事業ポートフォリオを照らしあわせ、経営ビジョンを定めました。新中期経営計画を、この経営ビジョン達成のための第一ステップと位置づけ、現行の中期経営計画で実施してきた先行投資案件からの収益、キャッシュフローの早期獲得などに取り組んでまいります。

### 1. 経営ビジョン

今般取りまとめた経営ビジョンは以下の3点です。

- (1) グローバルカンパニーとしての経営基盤、事業規模のさらなる強化、拡大
- (2) エネルギー・食糧問題の解決など、グローバル社会の持続的な発展に貢献
- (3) 企業価値の継続的な拡大

### 2. 経営ビジョン実現に向けた3つの戦略

経営ビジョン実現のため、「技術戦略」、「気候変動対応戦略」、「事業ポートフォリオ戦略」を積極的に展開いたします。各戦略の主な内容は以下のとおりです。

#### (1) 技術戦略

- ・大きな成長が見込める「環境・エネルギー」、「ライフサイエンス」、「ICT (Information & Communication Technology)」の3分野に研究資源を重点投入する。
- ・「創造的ハイブリッド・ケミストリー」を実践し、異分野の技術の融合により新製品・新技術を継続的に開発し、新しい価値を創造する。
- ・「グリーン・サステイナブル・ケミストリー」の追求を通じて、地球規模の問題解決に寄与する国際競争力のある製品を開発する。

#### (2) 気候変動対応戦略

- ・世界最高レベルのエネルギー効率を達成する。
- ・CO<sub>2</sub>の排出削減に貢献するプロセス・製品を開発する。

#### (3) 事業ポートフォリオ戦略

- ・「バルクケミカル（基礎化学・石油化学）」、「ライフサイエンス（農業化学・医薬）」、「ICT・電池材料・精密化学」の3分野の売上構成比率を2020年度に均等にする。

※2009年度売上構成比率（見込み）：「バルクケミカル」4割、「ライフサイエンス」と「ファインケミカル（精密化学・情報電子化学）」の合計が5割

### 3. 新中期経営計画

経営ビジョン達成の第一ステップである、2010～2012年度の中期経営計画は以下のとおりです。

#### (1) 基本的な取り組み

##### ① 先行投資からの収益・キャッシュフローの早期獲得

「ラービグ計画」をはじめとする、これまで実施してきた先行投資案件から、収益、キャッシュフローを早期に獲得していく。

##### ② 財務体質の強化

キャッシュフロー管理を充実させ、財務体質の強化を図る。海外売上高比率が増加していることから、為替変動に対してより抵抗力のある事業構造へシフトする。

##### ③ コア事業・基盤事業のコスト競争力の一層の強化

これまで以上に海外生産拠点を念頭においた、最適生産・販売体制をいち早く確立する。熾烈さを増す新興国市場でのシェア拡大・確保のため、徹底した合理化を実施する。

##### ④ 事業成長のスピードの加速

成長3分野「環境・エネルギー」、「ライフサイエンス」、「ICT」関連事業の積極的な拡大を図る。全社横断的な事業の探索、開発をこれまで以上に進め、ハイブリッド・ケミストリーを推進する。

##### ⑤ 気候変動対応戦略の積極的推進

##### ⑥ グローバル経営システムの強化

##### ⑦ コンプライアンスの徹底、安全安定操業の維持・継続

#### (2) 経営目標

新中期経営計画の経営目標は、最終年度の2012年度において、連結売上高2兆4,000億円、連結営業利益1,900億円、連結経常利益2,200億円、連結純利益1,400億円と設定いたしました。

財務体質については、業績の改善およびキャッシュフローの獲得を図るとともに、株主資本を増加させることで、デット・エクイティ・レシオを最終年度には1.0倍まで改善させることを目標としています。

(億円)

	2009年度 (見込み)	2012年度 目標
連結売上高	16,200	24,000
連結営業利益	350	1,900
連結経常利益	200	2,200
連結純利益	100	1,400

住友化学グループは、経営ビジョン達成に向けて新中期経営計画を迅速かつ着実に実行していくことで、グローバル社会の持続的発展に貢献する中で経営基盤・事業規模をさらに強化・拡大し、企業価値の継続的な拡大に向けて力強く前進してまいります。

以上

#### (注意事項)

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与える重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。